

94
1
49

準貴

宗家記錄

諸方御內用往復書狀扣

同嘉永四年
五年

廿二

宗家記録

詔方御内用往渡表状

第廿二冊

嘉永四年
五月

其者

南六月勿能而亦用向

其者

對馬島名曰之修建非法者

其者

沙國許一之如也此要知然若

其者

此收在法法之修之方妙原

其者

其聲其以此收之教志亦連亦

其者

一酒 亦亦許極水各所老通

其者

中安極台曰一酒都公之通

其者

沙以府公能美出之連延勝之法

其者

其及何極之法其書之可別

其者

其之長亦連出之方亦在何

其者

沙內之之其之 亦亦許極其

其者

其候之法其之其及之其亦其

其者

了中其其之法其重用之其法亦

其者

法其其書其亦其其其法其其

其者

其其其書其亦其其其法其其

其者

其其其書其亦其其其法其其

其者

其其其書其亦其其其法其其

其者

其其其書其亦其其其法其其

其者

其其其書其亦其其其法其其

本動の極より一仕事に於ては

此の如くもなるべしと云ふ行大に及ぶ

次第に於て了はるる所は清寂

なる所なり又右の清用は私

に於てはなる所なり清用は清

の用は清の用なり清用は清

の用なり清の用なり清用は清

の用なり清の用なり清用は清

の用なり清の用なり清用は清

の用なり清の用なり清用は清

の用なり清の用なり清用は清

の用なり清の用なり清用は清

の用なり清の用なり清用は清

の用なり清の用なり清用は清

の用なり清の用なり清用は清

の用なり清の用なり清用は清

願くハ御目見を奉る事也

此後御用御用御用御用

御中御用御用御用御用

御用御用御用御用御用

御用御用御用御用御用

御用御用御用御用御用

御用御用御用御用御用

御用御用御用御用御用

御用御用御用御用御用

御用御用御用御用御用

御用御用御用御用御用

御用御用御用御用御用

御用御用御用御用御用

御用御用御用御用御用

御用御用御用御用御用

御用御用御用御用御用

辛及錄法... 此... 法... 了... 去... 家... 如... 此... 接... 一... 亦...

勿能之 法科合 法重定

御用之家 作展中 法定例

手通 寺々々 御奉勤 方階

法殿 法殿 為成 寺々々 御奉

法別殿 法殿 寺々々 及法 御奉

御用中 法奉 御奉 方御奉

法奉 寺々々 御奉 寺々々

法殿 寺々々 御奉 寺々々

法殿 寺々々 御奉 寺々々

法殿 寺々々 御奉 寺々々

法殿 寺々々 御奉 寺々々

法殿 寺々々 御奉 寺々々

法殿 寺々々 御奉 寺々々

法殿 寺々々 御奉 寺々々

法殿 寺々々 御奉 寺々々

法書裁方之乃其是文也
對其去右之也又少以信
寫以信上之乃其是文也
信之也信之乃其是文也
法書裁方之乃其是文也
對其去右之也又少以信
寫以信上之乃其是文也
信之也信之乃其是文也
法書裁方之乃其是文也
對其去右之也又少以信
寫以信上之乃其是文也
信之也信之乃其是文也
法書裁方之乃其是文也
對其去右之也又少以信
寫以信上之乃其是文也
信之也信之乃其是文也

波落のりらへはるるのりらへ

一 清毛動方注の魏書を以て評す

法は之を以て法に文句題了

名を以て了るる法に非得也

清毛動方注の魏書を以て評す

事加のりらへはるるのりらへ

名を以て了るる法に非得也

清毛動方注の魏書を以て評す

事加のりらへはるるのりらへ

名を以て了るる法に非得也

清毛動方注の魏書を以て評す

事加のりらへはるるのりらへ

名を以て了るる法に非得也

清毛動方注の魏書を以て評す

事加のりらへはるるのりらへ

名を以て了るる法に非得也

世乃のりすしと法に書かざる

形知くししと法をそとて合はる

石相の法了攻りし意切之

時乃法別種口中し水法を

法を法と法と南に成りし

法用使に官文の法の内定を法

石居障板中伸法及法

おろしつと法に法に法

おろしつと法に法に法

おろしつと法に法に法

おろしつと法に法に法

おろしつと法に法に法

おろしつと法に法に法

おろしつと法に法に法

おろしつと法に法に法

おろしつと法に法に法

右御書付之様子おこなはせ

しとて用之御書裁方之に

徳問口少無合及法用御成

お成り之に御成りお見え

又見様之御成り之に御成

お見え御成り之に御成

之に御成り之に御成

裁別様之に御成り之に

率及無合御成り之に御

法問御成り之に御成り

見御成り之に御成り

之に御成り之に御成り

之に御成り之に御成り

之に御成り之に御成り

之に御成り之に御成り

常許極口法回意之修之
不許之山事以之為家社
法回許之之之之之之之
亦之之之之之之之之之
修之之之之之之之之之
私之之之之之之之之之
之之之之之之之之之之
先之之之之之之之之之
法之之之之之之之之之
極之之之之之之之之之
無之之之之之之之之之
之之之之之之之之之之
法之之之之之之之之之
修之之之之之之之之之

有く若く月角一ノ孫取置
以る心清し系三厨方又此内同
之方及以場も了る此法成
之儀と造る法は身斗事
在る故に之中より長く如
所也

一 世に造る法は此札
以得る法は高し能く如く
之を南テ以例之に以て今
法用書候は法は此に非
下中ノ心清し此の旨は
之乃此の法は此の旨は
此の法は此の旨は此の旨
越別棟心一法は此の旨

夫之亦乃居也

有通冲信句身居停

正信上且冲来勤一服

法用中法法至法通法用

法法法法法法法法法法

冲来勤方正法法法法法

法法法相见如法法法法

法法法法法法法法法法

冲来勤法法法法法法法

法法法法法法法法法法

法法法法法法法法法法

法法法法法法法法法法

法法法法法法法法法法

秋事は是海越別標
清の宮家ありしは誠と經方は
軍上と只くは古法乃は
攻守成りたりしは且夕
あり色は形貌くしは
世版ありし力なればと
言通はかゝる中一
ありては中よむは
二文口くして行はし
尖はかましりは
及はるる方々
御國と傳ふは

辛丑

九月廿四日 南又

平田筆人皮
懐部金皮
小野心金皮
田嶋信金皮
大東金皮

少文之世及之清達了不此可也

裁之之信源の事在清達家門後因神

通用之清方此一通一力之信源之金

以多難計此少之古又今物日少感感

率及及肉活の事又裁之之信源之金

物影の事今清方之清達之金裁之

之象信源之通一力也知之信源之

残之月也事府之信源之信源之

お知ぬの事
しはるる法時良法何

おのり申ふとのたふはお知ぬ候との候

さすやうの候は儀請ふは所候と

及の時の少用候は是と考も付可申

事候は存先南時と見合申候と

力付候及了知候と清く申候申合

意候は又曰代は是も候は候と

意候は力付候と申候は候と

意候は力付候と申候は候と

意候は力付候と申候は候と

意候は力付候と申候は候と

意候は力付候と申候は候と

意候は力付候と申候は候と

意候は力付候と申候は候と

意候は力付候と申候は候と

意候は力付候と申候は候と



一筆波路去朝鮮信法

事修儀自今註刺別禮記

傳或下了家少整以少議定

正法至其內省有月字載中宗啟

法宅口私家事者其云云以書

街通之教通之街書分去文等

與信法成洋思往之修法

詳承知仕場之旨其長以就右
越中守殿の位又以前帳中の上
少辰少清之令中上之旨其長
心増流之

七月廿四日

松平敬中守様

多古丹飯守様

松平伊豆守様

松平和泉守様

戸田采女守様

由中様

松平伊豆守様

早見礼少守様
山内上守様

一筆波路之上先達之凶年之
是傳之及也 以至其之後形示
永久之通交不易之儀也遠東
有之少評議之 作如之也
元來信使之一併格言也夫
烟劇費用之及中儀也
凶年小よりて聘礼也門及
界行少活言其費用之了
一統因窮之及後言不
終身所長久之策之簡易
志くハカクハ分自今於
信使还将聘礼之整
通交簡易之所礼式
其之變儀之了

思公惟方少母之相解心會

少極言亦潤心私了又配旨

作書以條方之脈厚相合不辭

以極之筆一蒙來亦固又和

大其德方之云以行在遠

妾如亦知仕尤行書分通

一通真文之書分之返書

和文一通少復成別為

使君之書一其書以

使君之書

公命之書首之似系判台

行建之少極之叔德仕

了政之方之脈少法方

思公之書

七月廿五日

松平敬中守狀

此後者望

此度朝鮮筋竹用之儀
作玉守家奉之者云云此奉細

此旨云云成山奉達此後道也
朝鮮白掛合方丹誠了法右在籍
心恩札中上奉細書中云云

張暑者一知承所奉奉云云
海軍其旨然此度議得

江戸市川町三丁目

月日なし

内右

右一冊おくりし物思ひ申上り候事

此物之由り書裁之由り申上り候事

仕立心白

右所出書本旨お達以紙書

及此紙書之旨

二年

十月廿七日 大藏卿 藤原 公 宣

田島 監物

小野 山 守 兼 門



儀部在東



半田隼人



半田在東

Faint green ink bleed-through or ghosting of text from the reverse side of the page.

御用

御用

竹田風

以列候之旨之儀聘奉到使
事回集人候去上日之取有以
奥主美
乃公迄至
上取之次第中座之至作之
勿論之儀先之違之延禮奉到使
上取之儀列候之儀中座之
山向之儀先之違之延禮奉到使
山向之儀先之違之延禮奉到使

抄渡り書成りては出使書海
波北意阿三掛合とて
高尾那中一筆九十一
進上りては西とて人
未判とて書箱写中
上る也後封中
抄系とて書成りては出使書海

今好しき用有先達
有ては及書山とて元
書箱写中とて紙
年細書如可
此のとの紙とて
候于西使
つとて夫とて

夜好公從建國向進丁海
以爲下名無所爲之
少能公之如陳之

序天
去り共
大東城書局

多田右衛門

田原監物

小折印書

懷部書局

平田又書友

りー一第列更上船の年不記抄漢漸々
之如祝多々々々々々々々々々々々々々々々
時長別々々々々々々々々々々々々々々々々々

香海海方一少月調然也
波念影中一少月調然也

大正一四年丁卯建以迄之乃其五

十二月廿二

少翁

少人及

香海海方一少月調然也

波念影中一少月調然也

歲首一記持身公算一

吉月十二日之書同廿一日

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

山中太行之書一版越州松

山手延聘之秋之水田守松

元子公守之計之根江中織

今自公始知之事人亦月

既以意之由用之於中尚比

之掛り之由何の根之水在

意之如在何の古之水用

将可之文く部を地志

一子孫に及ぶるは

了んては中へ居たり

中へ居り及ばぬは

此の事

法有るは此の事

此の事

此の事

此の事

百...
...
...
...
...

十...
...
...
...
...

...
...
...
...
...

...
...
...
...
...

...
...
...
...
...

...
...
...
...
...

...
...
...
...
...

Handwritten text on the right edge of the right page, partially obscured by the binding.

道徳一列のつとめ

湖邊のつとめ

つとめ

道徳一列のつとめ

つとめ

つとめ

つとめ

つとめ

つとめ

つとめ

Vertical text on the right edge of the right page, partially obscured by the binding.

Vertical text on the right page, written in black ink.

Vertical text on the right page, written in black ink.

Vertical text on the right page, written in black ink.

Small vertical text at the top of the left page.

Vertical text on the left page, written in black ink.

Small vertical text at the top of the left page.

Vertical text on the left page, written in black ink.

Small vertical text at the top of the left page.

Vertical text on the left page, written in black ink.

Small vertical text at the top of the left page.

Vertical text on the left page, written in black ink.

Small vertical text at the top of the left page.

Vertical text on the left page, written in black ink.

Vertical text on the left page, written in black ink.

Handwritten text on the right edge of the right page, partially obscured by the binding.

Handwritten text in the upper right section of the right page.

Handwritten text in the middle right section of the right page.

Handwritten text in the lower right section of the right page.

Handwritten text in the lower middle section of the right page.

Handwritten text in the lower left section of the right page.

Handwritten text in the upper middle section of the left page.

Handwritten text in the middle section of the left page.

Handwritten text in the lower middle section of the left page.

Handwritten text in the lower section of the left page.

Handwritten text in the lower section of the left page.

Handwritten text in the lower section of the left page.

Handwritten text in the lower section of the left page.

Handwritten text at the top of the left page.

Handwritten text at the top of the left page.

Handwritten text at the top of the left page.

Handwritten text at the top of the left page.

Handwritten text at the top of the left page.

江の口へ船を寄せての船に上りて
有邊の山に上りて舟を寄せての船
舟に上りて人々も舟に上りて舟に
舟に上りて舟に上りて舟に上りて
舟に上りて舟に上りて舟に上りて
舟に上りて舟に上りて舟に上りて
舟に上りて舟に上りて舟に上りて
舟に上りて舟に上りて舟に上りて

有邊の山に上りて舟を寄せての船
舟に上りて舟に上りて舟に上りて
舟に上りて舟に上りて舟に上りて
舟に上りて舟に上りて舟に上りて
舟に上りて舟に上りて舟に上りて
舟に上りて舟に上りて舟に上りて
舟に上りて舟に上りて舟に上りて
舟に上りて舟に上りて舟に上りて
舟に上りて舟に上りて舟に上りて

身を月山と云ふは海と云ふ高らんと云ふは
う波と云ふは秋と云ふはうまうまといふは
かうしと云ふはうまうまといふは
三月十日
平田又と云ふ

平田集人

後部と云ふ

小野と云ふ

田島と云ふ

樋口と云ふ

多田と云ふ

大谷と云ふ

うまうまといふは海と云ふ高らんと云ふは

うまうまといふは海と云ふ高らんと云ふは

うまうま


永年一能事之長年此後之長年勤者少也
其意也其能也其德也其人其心其志其力其功其業
其乃能也其能也其德也其勤也其心也其志也其力也
其功也其業也其能也其德也其勤也其心也其志也其力也
其功也其業也其能也其德也其勤也其心也其志也其力也
其功也其業也其能也其德也其勤也其心也其志也其力也
其功也其業也其能也其德也其勤也其心也其志也其力也
其功也其業也其能也其德也其勤也其心也其志也其力也

長年此也其能也其德也其勤也其心也其志也其力也
其功也其業也其能也其德也其勤也其心也其志也其力也
其功也其業也其能也其德也其勤也其心也其志也其力也
其功也其業也其能也其德也其勤也其心也其志也其力也
其功也其業也其能也其德也其勤也其心也其志也其力也
其功也其業也其能也其德也其勤也其心也其志也其力也
其功也其業也其能也其德也其勤也其心也其志也其力也
其功也其業也其能也其德也其勤也其心也其志也其力也

其能也其德也其勤也其心也其志也其力也
其功也其業也其能也其德也其勤也其心也其志也其力也
其功也其業也其能也其德也其勤也其心也其志也其力也
其功也其業也其能也其德也其勤也其心也其志也其力也
其功也其業也其能也其德也其勤也其心也其志也其力也
其功也其業也其能也其德也其勤也其心也其志也其力也
其功也其業也其能也其德也其勤也其心也其志也其力也
其功也其業也其能也其德也其勤也其心也其志也其力也

其能也其德也其勤也其心也其志也其力也

其功也其業也其能也其德也其勤也其心也其志也其力也


樋口英法 

口島澄物 

小野山景 

遠 那在馬 

平田集久 

以所被令出之以奉判使平田

年人候上取少在何候先書

以言公道事之云云候上之候候事

年人上取海少候打續去月方

高浦出帆為月方之國之候書候

打進同九方渡海之候候事候

海軍中紙附事候候候事候

以是云及
高浦

多田のゆきまきとてたてて
わすれぬとていふはたのゆきまき
たててまき



多田のゆき



田のゆき



小田のゆき



依砂のゆき



平田のゆき

平田のゆき

平田のゆき

平田のゆき

大い海へ出づるは
道なきに
大い海へ出づるは
道なきに

中一七
又

部
子
堂
地

沙紙西合水知年人
或曰

七日と同日あり
海海即日

事越先ん
海海

事
海海

お初より其後此の字も母に

まはるる建てる流津國の事

道に終るる後古歌の流に

喜阿少少に

朱光 城前より此の流に

一、此の流に此の流に此の流に

集りて及ぶ後海、此の流に

朝能く此の流に此の流に

おまより此の流に此の流に

此の流に此の流に此の流に

修之... 故新... 故... 故...

忘切之... 故... 故... 故...

引續... 故... 故... 故...

是... 故... 故... 故...

正月十日

本回... 故...

修之之收新在之波白能片与之波

无切之振合之与有在片接改之

引接之与切切知白尔之少波片

心月九也

是之之用之也之也之也

平田之在也

平田之在也

津内密書

津内密書

津内密書

世世傳

此の紙と書去一紙十卷
松平越中も換上用人知書
相志方と内談中一度儀
沙度ん方今日申す
中書分は書と書と書と
西會紙中と換上校給
南法と書と書と書と

カシノトクノ文ヲ集メテ撰
一ノリノ中ニハ心ヲ以テ叙ス
此ノ旨合キテ細クシテ記シ
兼テ之ノ法ニ改メテ
非ノ行ハシメテ
右ノ中ニハ心ヲ以テ叙ス
永ノ法ニ改メテ記シ

少ノ法ニ改メテ記シ
評議ノ事ヲ以テ記シ
右ノ中ニハ心ヲ以テ叙ス
兼テ之ノ法ニ改メテ
非ノ行ハシメテ
右ノ中ニハ心ヲ以テ叙ス
永ノ法ニ改メテ記シ
少ノ法ニ改メテ記シ
評議ノ事ヲ以テ記シ
右ノ中ニハ心ヲ以テ叙ス
兼テ之ノ法ニ改メテ
非ノ行ハシメテ
右ノ中ニハ心ヲ以テ叙ス
永ノ法ニ改メテ記シ

一 交遊の事人及は自らは
好むる及は格別一切
包ししる事自らは
好むる及は格別一切
事と包ししる事自らは
好むる及は格別一切

此の如く公知能く對別
不空の如く公知能く對別
卜推公知ししる事自らは
好むる及は格別一切
儀故重復ししる事自らは
好むる及は格別一切
亦合是事と包ししる事自らは
好むる及は格別一切

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

對馬島之北... 日本國... 對馬島...

對馬島之北... 日本國... 對馬島...

對馬島之北... 日本國... 對馬島...

對馬島之北... 日本國... 對馬島...

對馬島之北... 日本國... 對馬島...

對馬島之北... 日本國... 對馬島...

對馬島之北... 日本國... 對馬島...

對馬島之北... 日本國... 對馬島...

對馬島之北... 日本國... 對馬島...

對馬島之北... 日本國... 對馬島...

對馬島之北... 日本國... 對馬島...

對馬島之北... 日本國... 對馬島...

對馬島之北... 日本國... 對馬島...

對馬島之北... 日本國... 對馬島...

對馬島之北... 日本國... 對馬島...

此後... 此後... 此後...

此後... 此後... 此後...

此後... 此後... 此後...

此後... 此後... 此後...

此後... 此後... 此後...

此後... 此後... 此後...

此後... 此後... 此後...

此後... 此後... 此後...

此後... 此後... 此後...

此後... 此後... 此後...

此後... 此後... 此後...

此後... 此後... 此後...

此後... 此後... 此後...

此後... 此後... 此後...

此後... 此後... 此後...

此後... 此後... 此後...

此後... 此後... 此後...

松子一青に子に産むる
くつゆかき一足折し痛む
しや左右あはれはるる
まよひしは産むにまよひ
の意合ふも調りゆふも
ゆふぬれしゆふぬれ
ゆふぬれしゆふぬれ

才とくしるる
厚り評議の
ゆふぬれしゆふぬれ
ゆふぬれしゆふぬれ
ゆふぬれしゆふぬれ
ゆふぬれしゆふぬれ

事忍辱の故右に違ふ
市上は形知に於て無別格
少指少白の事は此に違ふ
居此と云ふは此に違ふ
用入と云ふは此に違ふ
已事と云ふは此に違ふ
少指少白の事は此に違ふ

精石と云ふは此に違ふ
少指少白の事は此に違ふ
一少指少白の事は此に違ふ
少指少白の事は此に違ふ
少指少白の事は此に違ふ

おのりずきふしとて種十品集

只の重きもの何卒終りて

心込まぬ道波成熱しゆ

日更夜更色しも於て是れ事

儀とて度とて又集り人及

好らる度とて此度と別と

御達とて各々心とて一統

海心山丹誠なりて度度行

行しぬれとて心とて又得

教とて此道行しとて心

丁おし心色とてち如く心

新し法大用中とて心辨

身とて心辨一人とて心

行自心とて心とて心

後汗者...
柳自己...
恐怖...
...

右之...
...

取計...
...

十月十日

平田又秀

平田隼人
依那屋

中一星

一

一

一

一

一

胡祥來聘涉掛令儀

先逢至氏法直

街家上反以子

以在妻友

考一人必竟

諸家夥浦事

百姓向

右等之儀有為之儀

事之儀此之儀有為之儀

以後之儀此之儀有為之儀

在之儀此之儀有為之儀

之儀此之儀有為之儀

之儀此之儀有為之儀

之儀此之儀有為之儀

之儀此之儀有為之儀

之儀此之儀有為之儀

之儀此之儀有為之儀

之儀此之儀有為之儀

之儀此之儀有為之儀

之儀此之儀有為之儀

之儀此之儀有為之儀

之儀此之儀有為之儀

芳尊之儀
後守の事

掛
御
御
御

以合
是
非
く
身
松
丹
誠
と

て
ま
ま
の
儀
と
り
の
一
や
は
し
ら
る

参判
使
出
帆
と
式
お
も
も

松子
の
事
に
早
く
内
察
下
り

中
守
の
事
と
大
一
件
の
事
松
子

内
察
の
事
成
り
身
猶
又
は
候
得
ら

中
通
の
事
と
筆
の
事
に
知
ら

右
内
察
法
令
の
儀
涉
連
の
事

昨
上
の
事
節
と
い
つ
も
の
事

以
遠
之
事
以
目
通
の
儀
下
り

の
事

内
察
の
事
に
関
連
の
事

古詩狀四流女有抄達心真書
及少遊音字

五月三日

大東野老書

田為書物

小柳六郎書

依郡尺書

平田又尺書

涉紙面之邊之水也其度及纖
越中者御台之石有以水而
今較之亦用向之月故其委細
其處沙逢丁度及中越以也亦
之邊白沙逢以成其以紙也亦
越之今亦以邊之紙其亦以味
深長亦以紙沙度亦亦亦亦亦

牛田水紙

中如... 紙... 沙... 向... 亦... 不... 易... 好...
事... 一... 沙... 波... 未... 遂... 按... 見... 作... 交...
共... 友... 之... 用... 向... 一... 一... 沙... 經... 又... 進...
相... 潤... 之... 沙... 用... 之... 意... 以... 集... 人... 處...
又... 爲... 及... 按... 之... 爲... 及... 之... 按... 之...
功... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之...
之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之...

其... 以... 必... 知... 故... 衣... 之... 中... 合... 作... 成...
之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之...
沙... 之... 附... 之... 事... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一...
掛... 舍... 破... 解... 之... 對... 列... 之... 之... 不... 言... 易...
之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之...
謂... 說... 之... 波... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之...
之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之...

沙予内之系

公之沙也意力遠故之之存

其之向福折角也配之有向之

有又

公解之也沙計之案案以考其汗

其通之也沙有之反也陽法海補

内之風信自然不端之也也也也

不易揚之有之也此以故也之先殺

以達者力之之事也其海沙也也

事一也

右沙達之有也求也之也信也也

事一也

取樣之也達之也求也之也事一也

其也及也海也沙也也也也也

あし事ふれおとるは後より
おぼゆるおとるは後より
さゆのさゆのさゆのさゆの
さゆのさゆのさゆのさゆの
さゆのさゆのさゆのさゆの
さゆのさゆのさゆのさゆの

あし事ふれおとるは後より

御内密書

卯月十五



Faint, mostly illegible handwritten text in cursive script (sōsho) is visible across both pages. The text is written in black ink on aged, yellowish paper. The right page shows more distinct characters, including what appears to be '卯月' (Mitsuki) and '十五' (Jūgo), which corresponds to the date written in the center. The overall appearance is that of an old, weathered manuscript or diary entry.

少紙如...
...
...

以別紙之破去去十方伊至楷

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...

...

右左好清印符並のりしふらふら
其の心は二以波並たのふらふら
此反逆物とて是の心也
及中つる友中より對列の心波並
反逆の心の中より原の心也
非時
公義の心は二以波並たのふらふら

清波並のりしふらふら
事の心は二以波並たのふらふら
左の心は二以波並たのふらふら
即ち是の心也及のりしふらふら
右の心は二以波並たのふらふら
作の心は二以波並たのふらふら
心也及のりしふらふら

所得志志又涉彼之若拙治志
太守公白曰後中之極也之達向也
本了之能之也考之志又曰彼之也
彼之方也之方也志書局也為也
也之也之也之也之也及也之也
右也内話之件之列也中一選友
也之也之也之也之也之也長光

也内話之件之列也中一選友
也之也之也之也之也及也之也
也之也之也之也之也之也長光
也之也之也之也之也之也長光
也之也之也之也之也之也長光
也之也之也之也之也之也長光
也之也之也之也之也之也長光
也之也之也之也之也之也長光
也之也之也之也之也之也長光

口述上三卷至中下分發能く兼お考
長口抄紙中巻の之巻の之巻
之師魂之
乙卯

三月海
平田集人友
依那尾康友
平田又倉

小神心斎重友
田島監持友
樋口英清友
夕田左松友
大東繁重友
右心出去上丁お達以除書及合巻
以上

六月

廿一日

夕田左衛門



梅口 英濃



田島 監物



小沖之河 左衛門



清原 左衛門 實元

平田 又右衛門

平田 隼人



光

蘇州府

蘇州府

蘇州府

蘇州府

蘇州府

蘇州府

蘇州府

蘇州府

蘇州府

惟方案之代合在後方之改也
用人中多有之其方左極也蓋必
方之之件動是事如古也
也蓋其方不代合中得也後作極
下統也蓋其方希其之極也

八月六日

田清遠



小野



古川



田清遠



及江



及江



大張繁葉友
仁位求馬友

右所狀書官相臣... 奉... 臣... 謹言

十月二十

友

友
以馬

比後而之既之
承知也而求友
技之

比系勤之
比身也而書

比身也而書

比身也而書

以別後之... 比及議德

返轉... 比及議德

比系勤... 比及議德

之... 比及議德

了... 比及議德

中... 比及議德

狀... 比及議德

如自始之既畢
是乃別語
沙回之氣
上上沙回

右心狀之敏左胎及於道中一及
承知交之志記及波海見其若
如得志 冲系勤能水以深合其後
冲對語如海以上冲系勤之此下
冲系勤之此下冲系勤之此下
冲系勤之此下冲系勤之此下
冲系勤之此下冲系勤之此下
冲系勤之此下冲系勤之此下
冲系勤之此下冲系勤之此下
冲系勤之此下冲系勤之此下

及以分記右敏派之字之相率伊言快
冲用人之樂田望右惠門及肉強健能
与之此委田之其是又及水知為能
冲系勤之此下冲系勤之此下
冲系勤之此下冲系勤之此下
冲系勤之此下冲系勤之此下
冲系勤之此下冲系勤之此下
冲系勤之此下冲系勤之此下
冲系勤之此下冲系勤之此下

冲系勤之此下
冲系勤之此下

向未勤方之及速。之及以同以場
身於之。訪友以對話見其以書
以同方以及引。之及以之。以同以
其海之。之及以。其海之。以同以
左臉及。中。之及以。其海之。以同以
勿論。之及以。其海之。以同以
其海之。以同以。其海之。以同以

為其考。之及以。其海之。以同以
其海之。以同以。其海之。以同以
其海之。以同以。其海之。以同以
其海之。以同以。其海之。以同以
其海之。以同以。其海之。以同以
其海之。以同以。其海之。以同以
其海之。以同以。其海之。以同以

伊豆の肉の心及抜是の如波分書
通の了字云云及の勝子即東の巻
及の極中の中と云ふこと
有るは清礼中の上表は極中
石井水友の掛合先出の奥に
其後の子中清の書及及の
延の父の如

有る通清の書及の帯の如
其の後の如然の如の書
及の如の如の如の如の如
有るの如の如の如の如の如
有るの如の如の如の如の如
有るの如の如の如の如の如
有るの如の如の如の如の如
有るの如の如の如の如の如

お方三許日之山居者と云はれ
あふ西の如く居るに秋波波交り
水口之波を流去り然る水達
と下交

古く流るる力に流るる水は
多に流るる

三ノ月

平田又右

平田隼人友
俵那左衛門友
小波六右衛門友
田島監切友
梅口頭法友
平田右膳友
大森宗右友

此書末之者畧也

右此書去十首如左の如也

及此迄の事は

乙卯

甲子

今田丸



梅口



此書末之者

右此書去十首

及此迄の事は

田島監物



小沖守



法



平田



平田又丸

五洲圖說

右

及

所

一

五洲圖說

五洲圖說

五洲圖說

五洲圖說

佛内用卷

卯中月十日

增補西遊記

卷之四

